

群馬大学教育学部

教育に関する現況調査アンケート

H22-24年度卒業生調査結果報告書

平成26年

- A. 卒業年度
- B. 卒業した専攻
- C. I :勤務地
II :勤務している学校種別
III :採用の形態
- D. 教職を志望するようになった時期
- E. I :学習機会の評価
II :達成度の自己評価
- F. これからの教員に求められる資質について
■大学在学中に身に付いた、あるいは向上したと思う資質
- G. 教育学部の総合評価

【資料】

- ・群馬大学の優れている点や入学して良かったこと
- ・自由意見

A 卒業年度について

	人数	%
1 平成22年度	24	35.29
2 平成23年度	21	30.88
3 平成24年度	23	33.82
計	68	100

B 卒業した専攻について

	人数	%
1 国語専攻	7	10.29
2 社会専攻	0	0
3 英語専攻	20	29.41
4 数学専攻	3	4.412
5 理科専攻	8	11.76
6 技術専攻	3	4.412
7 音楽専攻	12	17.65
8 美術専攻	0	0
9 家政専攻	0	0
10 保健体育専攻	0	0
11 教育専攻	3	4.412
12 教育心理専攻	3	4.412
13 障害児教育専攻	9	13.24
計	68	100

C1 勤務地について

	人数	%
1 群馬県内	62	91.18
2 群馬県以外	6	8.824
計	68	100

C2 勤務している学校種別について

	人数	%
1 公立小学校	62	91.18
2 公立中学校	6	8.824
3 公立高等学校	0	0
4 私立小学校	0	0
5 私立中学校	0	0
6 私立高等学校	0	0
7 特別支援学校	0	0
8 幼稚園	0	0
9 その他	0	0
計	68	100

C3 採用の形態について

	人数	%
1 正規採用	67	98.53
2 非常勤採用	1	1.471
3 さくらプラン・わかばプラン等での採用	0	0
4 その他	0	0
計	68	100

D 教職を志望するようになった時期

	人数	%
1 大学に入学する前から	50	73.53
2 大学1年の頃	1	1.471
3 大学2年の頃	1	1.471
4 大学3年の頃	13	19.12
5 大学4年の頃	3	4.412
6 卒業してから	0	0
計	68	100

E- I 学習機会の評価

- 0 :まったく学ぶ機会がなかった(学習の機会をつくるべき)
 1 :学ぶ機会はあったが不足している(もっと学習の機会を増やすべき)
 2 :必要な事項を学ぶ機会があった
 3 :十分に学ぶ機会があった

		0	1	2	3	無回答	2以上	平均
1 教育の意義や歴史、教員の社会的役割や使命	人数	0	3	47	18	0	65	2.221
	%	0	4.412	69.12	26.47	0	95.59	
2 教育の制度、学校の仕組み、教師の服務規程等	人数	0	15	39	13	1	52	1.97
	%	0	22.06	57.35	19.12	1.471	76.47	
3 学校の校務分掌や教員の具体的な職務内容等	人数	5	47	14	2	0	16	1.191
	%	7.353	69.12	20.59	2.941	0	23.53	
4 小学校教科の学習指導に関する基本的事項	人数	0	6	36	26	0	62	2.294
	%	0	8.824	52.94	38.24	0	91.18	
5 中学校の教科に関する専門的な知識	人数	1	2	15	42	8	57	2.633
	%	1.471	2.941	22.06	61.76	11.76	83.82	
6 授業のすすめ方(説明・発問・板書・机間指導の仕方等)に関する基本的事項	人数	0	16	24	28	0	52	2.176
	%	0	23.53	35.29	41.18	0	76.47	
7 教科の実践的指導に関する知識・技能(学習指導案の作成・教材研究・授業構成等)	人数	0	10	22	36	0	58	2.382
	%	0	14.71	32.35	52.94	0	85.29	
8 教科以外(道徳、特別活動、総合的な学習の時間等)の指導のあり方	人数	2	27	34	5	0	39	1.618
	%	2.941	39.71	50	7.353	0	57.35	
9 子どもの成長・発達についての知識	人数	0	4	41	23	0	64	2.279
	%	0	5.882	60.29	33.82	0	94.12	
10 カウンセリングや教育相談に関する基礎知識	人数	0	9	43	15	1	58	2.09
	%	0	13.24	63.24	22.06	1.471	85.29	
11 児童・生徒との良好な人間関係の築き方	人数	0	21	41	5	1	46	1.761
	%	0	30.88	60.29	7.353	1.471	67.65	
12 一人一人の子どもの個性を理解しようとする態度	人数	1	14	43	10	0	53	1.912
	%	1.471	20.59	63.24	14.71	0	77.94	
13 児童・生徒の立場に立った生徒指導のあり方	人数	1	24	33	10	0	43	1.765
	%	1.471	35.29	48.53	14.71	0	63.24	
14 学修指導要領と各学年の教育課程(年間計画等)の編成に関する基本的事項	人数	1	19	32	16	0	48	1.926
	%	1.471	27.94	47.06	23.53	0	70.59	
15 学級づくりや集団指導のあり方	人数	2	27	36	3	0	39	1.588
	%	2.941	39.71	52.94	4.412	0	57.35	

E-II 達成度の自己評価

- 1 : 努力を要する(大学の成績評価のDに相当)
 2 : 「1」と「3」の間(大学の成績評価のCに相当)
 3 : おおむね満足できる水準にある(大学の成績評価のBに相当)
 4 : 「3」と「5」の間(大学の成績評価のAに相当)
 5 : 十分に満足できる水準にある(大学の成績評価のSに相当)

		1	2	3	4	5	無回答	3以上	平均
1 教育の意義や歴史、教員の社会的役割や使命	人数	2	10	40	10	4	2	54	3.061
	%	2.941	14.71	58.82	14.71	5.882	2.941	79.41	
2 教育の制度、学校の仕組み、教師の服務規程等	人数	3	14	34	12	2	3	48	2.938
	%	4.412	20.59	50	17.65	2.941	4.412	70.59	
3 学校の校務分掌や教員の具体的な職務内容等	人数	11	25	18	10	0	4	28	2.422
	%	16.18	36.76	26.47	14.71	0	5.882	41.18	
4 小学校教科の学習指導に関する基本的事項	人数	0	8	30	24	5	1	59	3.388
	%	0	11.76	44.12	35.29	7.353	1.471	86.76	
5 中学校の教科に関する専門的な知識	人数	1	2	22	28	6	9	56	3.61
	%	1.471	2.941	32.35	41.18	8.824	13.24	82.35	
6 授業のすすめ方(説明・発問・板書・机間指導の仕方等)に関する基本的事項	人数	0	6	32	22	7	1	61	3.448
	%	0	8.824	47.06	32.35	10.29	1.471	89.71	
7 教科の実践的指導に関する知識・技能(学習指導案の作成・教材研究・授業構成等)	人数	0	6	29	23	9	1	61	3.522
	%	0	8.824	42.65	33.82	13.24	1.471	89.71	
8 教科以外(道徳、特別活動、総合的な学習の時間等)の指導のあり方	人数	4	22	30	11	0	1	41	2.716
	%	5.882	32.35	44.12	16.18	0	1.471	60.29	
9 子どもの成長・発達についての知識	人数	0	8	36	23	0	1	59	3.224
	%	0	11.76	52.94	33.82	0	1.471	86.76	
10 カウンセリングや教育相談に関する基礎知識	人数	0	12	33	21	1	1	55	3.164
	%	0	17.65	48.53	30.88	1.471	1.471	80.88	
11 児童・生徒との良好な人間関係の築き方	人数	1	10	42	14	0	1	56	3.03
	%	1.471	14.71	61.76	20.59	0	1.471	82.35	
12 一人一人の子どもの個性を理解しようとする態度	人数	1	6	37	21	2	1	60	3.254
	%	1.471	8.824	54.41	30.88	2.941	1.471	88.24	
13 児童・生徒の立場に立った生徒指導のあり方	人数	2	6	41	17	1	1	59	3.134
	%	2.941	8.824	60.29	25	1.471	1.471	86.76	
14 学修指導要領と各学年の教育課程(年間計画等)の編成に関する基本的事項	人数	0	17	32	16	2	1	50	3.045
	%	0	25	47.06	23.53	2.941	1.471	73.53	
15 学級づくりや集団指導のあり方	人数	2	12	39	13	1	1	53	2.985
	%	2.941	17.65	57.35	19.12	1.471	1.471	77.94	

F これからの教員に求められる資質について

項目	選択	
1 社会人としての常識	人数	21
	%	30.88
2 広く豊かな教養	人数	32
	%	47.06
3 対人関係の持ち方やコミュニケーション能力	人数	26
	%	38.24
4 情報処理の技能(パソコン操作等)	人数	27
	%	39.71
5 課題発見・課題解決の技能	人数	18
	%	26.47
6 発表やプレゼンテーションの技能	人数	36
	%	52.94
7 組織の中で行動する協調性や指導性	人数	24
	%	35.29
8 教師としての規範意識や責任感	人数	33
	%	48.53
9 子どもたちへの教育的愛情	人数	36
	%	52.94
10 人間尊重・人権尊重の精神	人数	3
	%	4.412
11 男女平等の精神	人数	5
	%	7.353
12 ボランティア精神	人数	17
	%	25
13 多文化共生・異文化への理解	人数	19
	%	27.94
14 日本や郷土の歴史・文化の理解	人数	6
	%	8.824
15 自然保護・地球環境問題の理解	人数	2
	%	2.941
16 障害のある子どもの理解	人数	45
	%	66.18

■大学在学中に身に付いた、あるいは向上したと思う資質

社会で働くことに対する意識の向上

人前で話をする力(技能とはまた違う)、客観的に物事を伝える・考える力

教科(理科)の専門的な知識が身につきました。

自分が様々な学習の場(大学外)に出る機会が増え、その時に③⑫⑯について向上したと思う

専門的な知識

叱られたり注意を受ける力

授業の作り方、学習指導要領の中身の解説

教科の専門的知識

数学教育の知識

自己啓発力。

教科の専門性

サークル活動の影響ではありますが、手話の技能。実際に学校で子どもたちと接する際にも役立てることができているため。

障害のある子どもたちとのかかわり方(サークルにて)

お酒の飲み方 世渡りの仕方

他者を理解しようとする態度、キャパシティの広さ

教科の専門性(知識だけでなく技能も含め)

G 教育学部の総合評価

- 1 :改善を要する
- 2 :「1」と「3」の間
- 3 :おおむね満足できる水準にある
- 4 :「3」と「5」の間
- 5 :十分に満足できる水準にある

		1	2	3	4	5	無回答	3以上	平均
1 教員・スタッフ	人数	0	5	22	24	17	0	63	3.779
	%	0	7.353	32.35	35.29	25	0	92.65	
2 教育のための施設・設備	人数	2	4	22	22	18	0	62	3.735
	%	2.941	5.882	32.35	32.35	26.47	0	91.18	
3 授業編成や教育課程	人数	1	9	25	23	10	0	58	3.471
	%	1.471	13.24	36.76	33.82	14.71	0	85.29	
4 教育実習等の現場実習	人数	0	4	6	21	37	0	64	4.338
	%	0	5.882	8.824	30.88	54.41	0	94.12	
5 総合評価	人数	0	2	18	40	8	0	66	3.794
	%	0	2.941	26.47	58.82	11.76	0	97.06	

【群馬大学の優れている点や入学して良かったこと】

教員免許取得、採用試験合格に向けての授業やコース等の体制がしっかりしていて、教員になるために手厚く指導していただいたことが、入学して良かったと思う点です。教育機関とのつながりも強く、現場の実情を知る機会や実践を積む場を多く設けていただいたことも、大変身になったと思います。

教育実習の充実だと思います。

- ・ためになる講義がたくさんあった。教育実習、体験実習など、1年次から教育現場に出られたことは本当に良かった。インターンシップも充実していた。
- ・多くの研究室があったこと。学びたい分野が細分化されており、良かった。
- ・教育実習以外でも、色々な経験をすることができた。(さるでも分かる科学教室、科学教室(LABIへの出展)など)

群馬県の求める教育を意識しながら、私自身学習に取り組むことができた。大学での人間関係は今でも続いており、情報交換等非常に助かってる。研究室も教育の専門分野で学ぶことができて、現在にもつながってきている。

理科専攻として、専門的知識や実験での注意など多くのことを学ぶことができました。また、群馬で教員を目指している多くの仲間と知り合うことができ、そのつながりはとても役に立っていると思います。

教育実習の充実

教育実習がしっかりサポートされている。実習先が決められているため、手続きがなくありがたい。同級生と一緒に頑張れる環境は嬉しい。

ゼミの先生がとても良い人で今でも時々会ったり連絡をくださったりする。

3年次の後期に実習A・Bを組み、実習後は各自に時間の使い方が任されていた点は大変ありがたかったです。おかげさまで採用試験の準備ができました。

教育実習前までの一年次、二年次に実際の教育現場を知る機会が十分にあったこと。(現場体験等)

群馬は小中での異動があるので、小中の知識がまんべんなく学べたのが良かったと思います。また、高・幼・特支・他教科等、様々な免許が取れるのが良かったです。

- ・全教員免許取得が可能な点。(幼・小・中・高・特支)
- ・教授が接しやすい方が多く、楽しい授業がたくさんあった点。
- ・教育実習のやりやすさ。教育実習を長く、密にできたことが現場で本当に役に立っている。

教員採用試験の対策が充実していたので、とても助かりました。

- ・複数の教員免許を取得しやすい。
- ・附属中の先生方が大変よくしてくださった。

群馬県内の教育に関してはスペシャリストがそろっている。また教員希望者が多く「皆で頑張ろう」という気持ちが育ちやすかった

- ・土地が広い。
- ・群馬県の教員となる上では対策や先輩方とのつながりなど得ることが多い。

- ・卒業後、群大卒の仲間や先輩や後輩のネットワークがあること。
- ・教育実習が充実している。(1年から現場が体験できる)
- ・高校教師になっても、義務校の内容が生きる。
- ・地元であるので。卒業後も足を運びやすい。

江森先生にご指導をいただいたこと。

採用試験の試験官をされている先生を授業に招いてくださったり、現場に出ている先生方の生の声を聞けたことは、有意義でした。

- ・先生方が学生1人1人の面倒を大変良く見てくださいました。
- ・教員採用試験について、大学のサポートが手厚く、感謝しております。
- ・学部4年間で専門教科の指導法について多く学ぶことができました。
- ・教育への理解を、実践・理論両方を通じて深められました。

- ・教員採用試験の面接対策や卒業論文指導、英語科教材研究での指導等、研究室の先生には大変お世話になりました。そのような手厚いご指導はとても優れている点でした。〈人気のある研究室なのに、本当に良く面倒を見てくれました〉
- ・また、県外受験(教員採用試験)でも、情報提供や面接対策の機会を与えてくださる先生もいて、群馬大学に入学して良かったと思います。〈深谷市のお知り合いの先生に声をかけてくださり、一緒に勉強させていただきました〉
- ・24時間、大学に入れるところ。(たくさん勉強できました)

学科内のサポート(教授・先輩方による)が大変手厚く、恵まれた環境の中で育てていただきました。現場を見据えた授業が充実していたため、実習はもとより、実際に働き始めてから「鍛えていただいたおかげ」「やっておいて良かった」と思うことが何度もありました。また、教採前の学部をあげた対策講座も、参加して為になったと思っています。働き始めて思うことは、地元勤めしていることもあり、卒業生の先輩が現場に沢山いることがとても心強く思えます。全体に向けてではありませんが、4年間人として大きく成長させてくださった、英語科の先生方、共に歩んできた先輩・後輩・仲間に心から感謝しています。そのような場を与えていただいた点から、入学して良かったと思っています。お力になれば幸いです。お世話になりました。

専攻あたりの人数が少ないため、手厚い指導を受けられたのが良かった。

- ・私は英語専攻でしたが、上原景子先生とレイモンド・フーゲンブーム先生に大変お世話になりました。東京に行かなくても地元で優秀な先生方に教えていただける点が良い点だと思います。
- ・県内の教員に群大卒が多く、就職してから仲間が多い点が良い点だと思います。

教育現場へ行く機会が1年生のときからあったので、よい経験ができた。教員採用試験へのモチベーションも早い段階で高めることができた。

英語専攻では、上原先生が現職経験をもとに、実践的・実用的な講座を提供して下さり、それが現在も業務遂行に生きています。大変でしたが、とても自分のためになりました。

教職を目指す仲間が多いので協力しお互いを高め合える。校舎がきれいになり、勉強にも集中できる環境になった。パソコン、ネット関連も十分に整備されていると思う。

施設・スタッフの充実。細かくサポートしてくれたことがありがたい。

教育実習の時期・期間は他大学に比べて優れていると思った。

英語専攻は少人数が学部であったため、一人一人に合わせた丁寧な講義やご指導を受けることができた。そのため、入学前～卒業の間に多くを学び、成長することができたと思う。英語専攻の講義の中には、教材研究や卒業論文作成のための講義など忙しいものが多かったが、教授の方々も、非常に熱心に親身になってご指導くださり、教師として身につけるべき多くのことを学ぶことができた。非常に感謝している。

授業を組み立てるうえでの基本的な知識や実践を、大学でたくさん学ぶことができた。学生の時にはよくわからないな、どんなふうに役立つのかなと思ったことも、現場にでてみるとこういうことだったのか、と感ずることが多々ある。(服務規律や教育の制度など)特に発問のしかたや板書のしかたなど、細かく指導方法を教えていただいたことが良かった。発達障害についてや教育以外の教養も、大学で学べてよかった。お世話になった先生方には、とても感謝しています。

施設に関しては、とても充実していると思います。過ごしやすい、学習しやすい環境だと思います。

採用試験のサポートはとても助かりました。また他大学からの受験者を受け入れている点も群大生への刺激になるし、高め合う雰囲気になってよかったです。在学中、あまり真面目ではなかったのですが、周囲の空気に助けられました。ただ、その不真面目さのおかげで、教員になってからの方が勉強しているような気がします。

英語教育、英語力強化、留学に力を入れている点。

指導力のある教授がおり、実践的な英語教育力を身に付けられた点。

- ・現場での教育を学ぶことができる環境が整っている。現場の先生方が普段の教育実践を指導してくれる。
- ・先輩との関わりが多く、教育実習や教員採用試験に不安なく臨むことができた。

3年後期の約8週間にわたる集中的な教育実習は現場をよく理解できるという点ですばらしい仕組みだと思います。他大学出身の先生たちに話すととても驚かれます。

- ・1年では、一般的な教養が幅広く身につけられる点。
- ・2年からは専攻する科目に関する講義がたくさんあり、専門的に学べる点。
- ・小学校の教科を学ぶ機会が多かったので、現在小学校に勤めていて、大学での経験が役立っている。

免許状が幼稚園から高校まで、頑張れば全て取得できるというところ。小・中の免許が取れることは知っていましたが、幼稚園と高校はどちらかしか取れないと思っていたので、両方とも取得できたことが良かったです。また、模擬授業を行う機会がたくさんあったので。実際に現場に出て、あたふたし過ぎることがなくて良かったです。

- ・教授が多く、様々な専門の知識を学ぶことができる。
- ・教育実習の充実。（当時はつらいこともあったが、毎日充実していた。指導法。意見交換、仲間との協力等、いろいろな面で大変勉強になりました。）
- ・教員採用試験対策の充実。

- ・教育実習の機会が充実している。
- ・他専攻との交流が講義の中で設けられていて、意見や情報の交換ができる。

- ・専攻ごとにまとまって行動する機会が多いため、今まであまり付き合いのなかったような人と一緒にいる時間も多く、人間関係（友人関係）が広がったように思う。
- ・学校教育や教科指導、生徒指導など、アンケートにあったような項目に関することが、基礎知識として幅広く学ぶことができた。

教育実習など、現場に触れる機会が充実している。学生のころは大変だと感じていたが、実習などを通じて、現場の雰囲気を感じたり、子どもたちとかかわる機会をたくさん得ることができたと思う。実習の数だけ指導案や記録を書くことが多かったため、働くようになってからそれらの経験も役に立ったと感じることが多々あった。

群馬県の採用試験の対策が充実していて、とても分りやすかったです。助かりました。

①「群馬県の教育を良くしたい」という同じ志をもった仲間に出会えること。そして切磋琢磨できるところ。②教育実習やその後の実地体験などの指導が充実していること。③教育。教科に対する専門的指導が充実していること。④教員採用試験へのサポートがしっかりしていること。

- ・家からそれなりに近いが、駅が遠すぎる。
- ・図書館が一般開放されている。

教育実習などの現場実習がとても充実しており、現場の実際を学ぶことができた。また、先生方も親身になって相談にのっていただいたり、とても丁寧に指導してくださり、安心して学ぶことができた。

- ・教育実習の内容が充実している。（期間や事前・事後指導等）・教員採用試験の2次対策が充実している。
- ・部活やサークルの環境が充実している。

実習は充実していたと思います。インターンシップに行けたこともプラスになりました。

教室が数多くあり、練習室もあったので勉強や練習をする場所が整っているのはありがたかったです。また、教育実習が小学校と中学校あわせて約2ヶ月あったのは、大変でしたが現場を学ぶのにとっても役立ちました。教員採用試験の対策講座がとてもためになり助かりました。

- ・教育実習が3年後期に2回、8週にわたってあり、実習校も手厚く面倒を見てくださること。
- ・一年次から現場に出る機会があったこと。

- ・実習が小・中学校両方を経験できるため、自分に向いている校種を知ることができる。
- ・小学校全科の指導法を学べただけでなく、自分の専門である音楽についても幅広く学ぶことができました。

幅広く専門的に学べる点です。例えば、私は音楽専攻でしたが、実技と理論を学ぶ場はもちろんのこと、数多くの実践の機会（大学内での発表会等）があり、そこで経験したことが今の役立っています。また、副専攻として他教科の勉強できたこと、そしてその教科の免許を取得できたことによって、自信をもって教えることができています。

- ・専門の分野やそれ以外の教科の内容についても、幅広く学ぶ機会があった。
- ・教育実習が長く充実していた。同じ学校に行ける人数も多いので支え合いながらできて良かった。

私は群馬で教員になりたいと思い、群馬大学へ入学しました。4年間で一番良かったことは、教育実習が充実していることです。実習を通して、それまでとは異なる立場から“学校”を見て、実際に授業をし、子どもとふれあうことで自分の教員という職業が具体的なものになったと思います。また、そこで得たつながりが今、とても役立っています。（実習でお世話になった先生に色々教わったり、一緒に仕事したりすることが何度もあったので）また、採用試験対策はとてもありがたかったです。

（群馬での）教育、教師になるために必要な知識をしっかりと学べるので、教師を目指す人にとっては、とてもよいと思います。特に、教育実習では、8週間じっくり現場を見られるので、授業実践や子どもたちのふれあい、実際に働く先生方からのアドバイス等、役に立つことがたくさんありました。また、教員採用試験の前には対策講座があり、サポートが心強かったです。

- ・小・中両方の免許が取得できたのでよかった。現在高校に勤務しているが、義務での実習の経験が大いに役立っている。
- ・実習が充実していると思う。

- ・教育実習の充実。一年次から教育現場に行くことができることが一番の強みだと思っています。座学で学ぶことはもちろん沢山ありましたが、実際に先生方や子どもたちと関わる中での学びが一番大きかったです。
- ・教員採用試験への支援が手厚い。本当に助かりました。
- ・附属小・中の存在。講義や実習、インターンで大変お世話になりました。

- ・一人一人に手厚い指導をしていただき、専門教科を詳しく学ぶことができました。
- ・演奏会など、学科の仲間と協力して取り組めたこともチームプレーの大切さを実感する良い機会となりました。

【自由意見】

1年次には教養に関する講座を受講しましたが、教員になると、教職関係に視野が狭くなりがちなので、もっと幅広く教養を学べるとよかったと思います。教育学部ですが、教育だけでなく幅広い就職が目指せる体制があると、結果としてより見識の高い人材が育つのではないかと思います。

もっと現場を知りたかったと、今になって思います。教育実習Cが合っても良かったと思うくらいです。実習生ということで、甘い部分しか見えない、体験できないのは残念でした。もっと苦勞してでも教員になりたいと思わせるような良い意味で厳しい環境があってもいいなと思います。

- ・2年次の実習(付属小・中2日間)はもっと増やしても良い。
- ・3年次の実習後、講義を受けられるようにしてほしい。
- ・他教科と同じ教室で授業を受けてみたかった。系で分けることも大事だが、国語・理科で英語の授業を受けるなどにすると刺激になる(気がする)。

将来、教員となる学生を教育に対して前向きな気持ちをもって送り出していただけたら幸いです。

卒業時に単位を取得していれば、1種免許を取得させてほしい。どうしてきちんと授業を受けたのにダメなのか。卒業後に申請するのは大変だった。

もっと現場の様子、具体的な授業の仕方などを教えてほしい。知識をいただけても、それを生かす方法がわからず、2～3年働いているなかで、知識を忘れてしまっている状態。もったいない。

教育人間科学系の学生が副専として教科の免許をとることになると思いますが、社会がとりづらく苦しい思いをした友人がいたので、副専を希望してきた学生に対しては多大なるご配慮をいただければと思います。

- ・他県の教員採用試験の対策。(せめて関東だけでも)
- ・教育心理や教育法は、1年必修ではなく4年必修の方が教授でも生かせるし。学生側も授業をきちんとときくと思う。

建物の劣化が酷かった

- ・施設の面での改善(N棟)
- ・先生方が抜けてしまった(異動してしまった)際の補充。

- ・他の専攻ではどうなっているか分かりませんが、高校の教職を考えている人向けの講義があると良いと思いました。(もちろん、小・中学校で扱った内容や考え、教材研究に取り組む姿勢は、現在多く役立っています。)
- ・群大から、高校教師がもっと生まれてほしいです。(個人的な願望で大変すみません)

実習以外に、実際の授業や現場で使えるような教具等、少しでも授業作りのヒントや参考になるもの(本ではなく、道具など)が見られたりする場所があれば新卒ですぐに現場で働き始めても多少のゆとりができるのかなと感じます。(授業を参観させてもらうのが一番ですが、学生が授業を見に行くのは、なかなか肩身がせまいので…)

たくさん講義があるのでやむを得ないと思うのですが、受講したい講義が重なってしまい、両方受講できたら良いなと思ったことがあります。

「小学校〇〇指導法」の授業で、もっと現場で役立つスキルを身につける機会がほしかった。例えば、音読の指導方、評価の仕方など。(教育実習ではもちろん学べますが、教員になってから、悩むことも多くありました。)

小・中の教員養成コースだけでなく、中・高の教員養成をメインにしたコースもあると良かった。

授業数が多すぎて、特に1.2年生は忙しく、1つ1つの授業について学んだことがあまりなかった。英語の上原先生とレイモンド先生の授業以外は真剣になれなかった。特に1年の時は8:40～17:30までずっと授業を受けなければならない、期待して入学してくる学生はがっかりすると思う。講義形式の大学の授業と実践的な教育方法を学ぶという目的が合わないと思う。授業数を減らして、授業の質を上げれば、学生は満足すると思う。

- ・学活や道德の授業(具体例)をもっと見たかった。
- ・特別支援や生徒指導についての授業をもっと受けたい。

“1人1授業”を行う。実際に中学校等で使っている教科書のコピーを配って教材研究・授業をする。それを検討する場があるとだいぶ違うと思います。

専攻によって講義・演習・実習の授業の質、レベルに差があると思う。英語専攻でみっちり教材研究、模擬授業、指導案作成を指導してもらったのが現場でも生きている。市教委の指導主事におほめの言葉をもらいました。現場に入れば学力や学歴は全く関係ありません。学力が高くても現場でうまくいかない教員もいるし。学歴がいまいちでも現場で輝く教員もいます。仲間(職場の同僚)と協力し合い、連携することが現場では大切。協調性、人間性、空気を読む能力が必要です。それを大学でも学生に伝えてください。

県内公立校へ行き、実際の指導の現場をもっと感じることでできる機会があるとなお良いと感じた。学ぶこと、見て実際に知ることでは全く異なると働きはじめて感じた。

教育学部では、授業の方法や指導案作成の方法などと学ぶことができた。一方、職場での職員との関わり方、生徒・児童への生徒指導の方法などについては、学ぶ機会があまりなかったように思えた。(実際に現場に出て、学ぶべきことでもあると思うが…)

実際に教職について最初は学級経営がとても難しく悩んだ。大学のうちに、学級経営や学習規律など、授業以外の指導もことも学べるとさらにためになると思う。

- ・駐車場はもっと広くとれるといいと思います。(N棟の北側など)
- ・小・中の現場の経験の長い先生を教授に迎えて、学生が模擬授業をして、授業力を高める講座を増やせるとよいと思います。高い専門知識も必要ですが、卒業後すぐに活かせる指導技術を教われると、実際に子供たちの前に立った時に役立つと思います。たとえ10分の模擬授業からでも、学べること、教えてもらえることはたくさんあると思います。

- ・体育大会が1日になってしまったのは残念。教員として体育大会を運営する立場になって感じたのは、自分自身が2日間体育大会を満喫できる程の体力・精神力・気合いなどのパワーが必要だということです。また荒牧祭も出店に規制が増えたこと聞きます。“イベント力”を強化していけるような大学だと良いかなと思います。
- ・今も実習はA・Bで8週間なのでしょうか？実習明けの三年生は特に授業もとれなので、集中講のような形で三年生向けの何か授業や講座があると良いかなと思います。

教授や職員間の人間関係。

公務分掌に関わることを学ぶ場も必要だと思います。(学校における安全教育など)

様々な分野について、幅広く学ぶことができたので、とても良い学生生活を送ることができたと思っています。ですが、校務分掌のような「教える」仕事以外の仕事について、あまり学ぶことが(私自身が)できなかったのも、校務分掌とはどんなもので、どんな内容があって、実際にはどんな仕事をするのかというような、実践的なものがあったら現場に初めて入ったとしても困ってしまったり、周りにかけてしまう負担が減るのかもしれないなと思いました。復命書の書き方とか、こういう時にはこの書類を出すというような授業があったら良かったなと思いました。

大変お世話になりました。

私の学校は県外ですが、介護体験生や実習生の態度の悪さに驚かされます。(児童をスマホで撮る、ジャージやサンダルで登校する、指導中の私語や居眠り等)群大ではこのようなことがないよう、学生に対し、自覚や責任を喚起するようなご指導をぜひお願いします。

附属校での教育実習が長すぎると思う。5週間でなくて良い。

やはり大学で学んだことと実際の現場は違うことが多く、また違いが大きく、大学卒業後そのまま現場で使える知識や技術はあまりなかったように思う。難しいとは思いますが、このようなことが学べるとありがたかった。

群馬大学教育学部で良かったと心の底から思っています。小さい頃から教師を生まれ育った群馬でやりたいという夢をもっていました。実現し、今充実した毎日を送れているのは、大学での4年間での経験が大きく役立っているからです。本当にありがとうございました。

自分もそうであったし、人のことを言える立場ではないが、教師を目指す立場である学生の意識は低いと思う。

- ・教育実習前に指導案を書く機会が少ない。教育現場に入る前に、現職の先生方が書いた指導案を目にする機会をもっと設けた方がよいと思います。
- ・教員採用試験にある論文添削をしてくれるところをもっと作るべきだと思います。(論文対策が充実している他大学から比べて少ない)
- ・副専を取得することをもっと認めるべきだと思います。(特に教育三科においては、教員を目指す上で、専門教科がないのは厳しい)

指導案の書き方をもっとしっかり指導してもらいたかったです。

一年次で教養を多くとらなければならないカリキュラムで、専門科目をあまりとれなかったのが不満に感じました。また二年以上になっても、思ったほど専門科目や実技の勉強の機会が講義で得られなかったので、「教員数を増やすなどして、講義数や時間を増やしてもらえると充実した学習ができるのに…」と在学中は感じていました。

- ・優れた先生方がいると、群大で学ぶ意欲も高まると思います。
- ・実習の手厚さはとてもありがたいです。今後とも続けていってほしいです。

とても充実した4年間で過ごすことができました。ありがとうございました。

初等科〇〇の講義、指導法の講義は、教授によっての差があり、役立っていないと感じるものもあった。特に、自分の専門についてあるいは、自分の考えをただ話しているだけの講義は、学校での指導に生かせず残念。教育の現場に寄り添った内容にしていただけると良いと思う。

群大の附属小や附属中の先生方や児童生徒の様子を見学させてもらう機会はたくさんあったのですが、公立の小中学校の様子を見る機会(実習以外でも)や公立の小中学校で勤務されている先生方の授業を見たり、お話を聞いたりする機会があると良いと思います。(働き始めて、そう感じました)現実問題、難しいとは思いますが。あとは、道徳の模擬授業が充実すると良いと感じます。

- ・現場に来てみて、校務分掌の仕事に苦労した。1日の使い方や、仕事をする上でのマナー、電話応対など庶務についても、もっと資料やセミナーがあるとよいと思った。
- ・音楽科は特に、吹奏楽指導ができる人材を育成してほしい。生徒は指導者次第で良くなる。
- ・部活動指導も教員の大切な仕事なので、授業でも扱ってほしい。

大学で学んだことは確かにたくさんありましたが、それをそのまま現場で使えたことはありません。(児童・生徒の実態がもちろん異なるし、環境もちがうので、周囲の先生方に助言をいただきながら毎日を送っています。引出しの多さが重要です。)だからこそ、具体的な授業の組み立てや学級経営の工夫などをもっと教えてもらえたらよかったという思いがあります。(特に実際に働き始める直前、4年後期頃に)教育実習などで学ぶことや、初等科などで具体的な指導を受けたことが今、一番役に立っています。そういう機会を増やして頂ければ実際に現場に出る時の不安や戸惑いを軽減できるような気がします。でも、私は群馬大学で沢山の方々と知り合うことが出来、今も支えて頂いています。4年間過ごすことが出来て、本当に良かったです。現場では辛いこともありますが、学んだことを生かして頑張りたいと思います。先生方や職員の皆様に感謝しております。